

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4604		
科目名	ゼミナールⅣ		
担当教員	宮脇 健		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 5		
講義室	1314	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-F〔探究力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP5-J〔創造的挑戦力・達成力〕コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP6-K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発（2%） C1 倫理的思考・社会認識（3%） E1 学識と専門技能（30%） F1 探求と論拠（5%） F2 課題解決（5%） J1 継続的学習基盤（5%） J2 創造的思考（5%） K1 ライティングコミュニケーション（5%） K2 オーラルコミュニケーション（5%） L1 チームワーク（25%） M1 省察力（10%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標とステージ 3. 発展期 ～ 4. 定着期		
科目概要・キーワード	授業形態はオンライン（ライブ型）で行います。危機管理の基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要となる研修の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、個人研究を卒業論文として執筆し、完成させるまでの総合的なプロセスを指導します。授業形態は(講義・実技・実習・演習)		

	形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 卒業論文、研究				
授業の趣旨	■副題 リスク社会を分析・考察するために、不寛容な社会について考えることにします。 ■授業の目的 公共空間では、様々な人が他者に迷惑にならないように最低限の配慮を行いながら思い思いに時間を過ごしています。しかしながら、近年では、「〇〇を禁止する。」といった注意事項を目にすることが多くなり、また、公共空間でのマナーや倫理については、SNSを介して、議論されることが多くなっています。社会が多様化し、様々な人々がいかにして共存するべきか問われているにも拘らず、公共空間での振る舞いにかかわる問題は議論や問題が絶えないのでしょうか。本科目では、公共空間をフィールドワークの場と位置付けながら、現代の不寛容な社会について考えていくために必要な、問題意識、そして、仮説の構築、先行研究の収集などのマインドとスキルを駆使して、その問題を探求し、課題解決の方策を提示することを目的としています。そのため、卒業論文を書き、提出することが最終目的となります。公共空間を通して、4領域にかかわる様々なリスクについて考查をして、社会の見る目を養うことも目的としています。 ■授業のポイント 公共空間を通して不寛容な社会について考えていきますが、学生の関心により、何がリスクであるかは人により変わります。また、何を明らかにしたいのかという点は変わってきます。そのため、研究方法は様々なアプローチが考えられます（歴史的なアプローチによる分析、制度・政策の比較分析）。ただ、自身がターゲットにする場所（公共空間）に足を運んで観察を行う必要はあります。そのため、フィールドワークを行います。また、研究の関心によっては、自治体にヒアリング調査に行くこともありますし、商店街や街中で聞き取り調査を行うこともあります。様々な調査方法を問題意識に基づき、適切に駆使することで、公共空間を通じて危機管理に関する研究テーマの探求を行います。				
総合到達目標	リスク社会について考察をするために、個人で研究課題を設定して、その課題を解決するための論理的な思考と方法を態度を修得する。 ■個人で研究計画をたてることができる。 ■研究課題の探求のために社会調査を活用できる。 ■適切な方法を用いて実証的な分析を出来る。 ■問題意識、仮説、分析、検証、課題解決と論文の一連のプロセスを理解する。 ■上記の具現化するために、他者に研究の目的や方法などを説明できる。 ■卒業論文を書くために必要なPCスキルを身に付けることができる。				
成績評価方法	■授業での報告：3回（40%）B1、E1、G1、J1、J2、F1・F2、K1・K2、L1 （評価の観点）報告では、自分もしくはグループの研究目的が的確に報告され、定義や専門用語の説明など、他者へわかるように説明できているのかどうか、適応ルーブリック評価の基づく項目に従いチェックを行います。 （フィードバックの方法）毎回、講評を行い、修正点を指摘します。また、学生同士の議論の内容についても後日、まとめ共有フォルダー内で返却します。 ■毎授業での議論：15回（20%）B1、C1、E1、J1、F1・F2、K2、L1、M1 （評価の観点）報告に対して、議論と質問を他の学生からしてもらいます。その時の発言が報告内容と研究に基づく内容かどうか、チェックを行います。 （フィードバックの方法）質問、議論の内容が収束後、教員から質問と議論の意図や指摘に関してコメントを行うことでフィードバックを行います。 ■報告用レジュメ：3回（30%）B1、C1、E1、J1、J2、F1・F2、K1、L1、M1 （評価の観点）報告同様に、レジュメの形式要件と問題意識と先行研究の差異、仮説、検証方法が適切に記載されているかどうか、評価項目に従いチェックを行います。 （フィードバックの方法）報告と同様に、講評を行い、修正点を指摘します。また、後日レジュメに赤字かコメントをつけて学生に返却します。 ■評価シートなどの提出（10%）B1、G1、M1 （評価の方法）卒業論文に関する報告者の形式要件などをチェックするために使用します。ただし、報告者以外の学生に書かせることで、報告者以外の学生にも要件や必要なスキルを理解させるためにも使用します。 （フィードバックの方法）報告者へ授業終了後に渡すことでフィードバックします。				
履修条件	ゼミナールⅢを履修していること。				
履修上の注意点	特にありません。				
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>①授業テーマ 卒業論文の要件に関するガイダンス</td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ 卒業論文の要件に関するガイダンス
回	内容				
1	①授業テーマ 卒業論文の要件に関するガイダンス				

	②授業概要 卒業論文までの研究日程流れと卒業論文で必要となる、基準に関する説明を受けて、自分の今後の学修とを紐付けて、卒業論文で求められる能力が何かを説明することができるようになる（B1、C1、J1、F1・F2）。 ③予習（120分） 実査の調査データをまとめる ④復習（120分） 卒業論文を書くための4年次の後期の研究計画の再考をする
2	①授業テーマ 卒業論文（実査の分析1） ②授業概要 卒業論文に使用する実査のデータの分析結果の報告3名（各人約15分程度）をしてもらい、その内容について全員で議論を行うことで、卒業論文に必要な問題意識と帰結の流れの中で、そのデータをどのように使用すべきか、課題解決の提示と関連させて、説明することができるようになる（E1、F1・F2、J1、K1、M1） 報告者以外の学生は、実査の限界（問題点を課題）と卒業論文との帰結に関して議論の中で、報告学生にフィードバックを行うとともに、自分の研究テーマについても実査の結果と知見が課題を解決するに至るのか省察する（K2、L1、M1） ③予習（120分） 実査の結果についてレジュメにまとめる ④復習（120分） 指摘を踏まえて、再度分析を試みる
3	①授業テーマ 卒業論文（実査の分析2） ②授業概要 卒業論文に使用する実査のデータの分析結果の報告3名（各人約15分程度）をしてもらい、その内容について全員で議論を行うことで、卒業論文に必要な問題意識と帰結の流れの中で、そのデータをどのように使用すべきか、課題解決の提示と関連させて、説明することができるようになる（E1、F1・F2、J1、K1、M1） 報告者以外の学生は、実査の限界（問題点を課題）と卒業論文との帰結に関して議論の中で、報告学生にフィードバックを行うとともに、自分の研究テーマについても実査の結果と知見が課題を解決するに至るのか省察する（K2、L1、M1） ③予習（120分） 実査の結果についてレジュメにまとめる ④復習（120分） 指摘を踏まえて、再度分析を試みる
4	①授業テーマ 卒業論文（実査の分析3） ②授業概要 卒業論文に使用する実査のデータの分析結果の報告3名（各人約15分程度）をしてもらい、その内容について全員で議論を行うことで、卒業論文に必要な問題意識と帰結の流れの中で、そのデータをどのように使用すべきか、課題解決の提示と関連させて、説明することができるようになる（E1、F1・F2、J1、K1、M1） 報告者以外の学生は、実査の限界（問題点を課題）と卒業論文との帰結に関して議論の中で、報告学生にフィードバックを行うとともに、自分の研究テーマについても実査の結果と知見が課題を解決するに至るのか省察する（K2、L1、M1） ③予習（120分） 実査の結果についてレジュメにまとめる ④復習（120分） 指摘を踏まえて、再度分析を試みる
5	①授業テーマ 卒業論文（実査の分析4） ②授業概要 卒業論文に使用する実査のデータの分析結果の報告3名（各人約15分程度）をしてもらい、その内容について全員で議論を行うことで、卒業論文に必要な問題意識と帰結の流れの中で、そのデータをどのように使用すべきか、課題解決の提示と関連させて、説明することができるようになる（E1、F1・F2、J1、K1、M1） 報告者以外の学生は、実査の限界（問題点を課題）と卒業論文との帰結に関して議論の中で、報告学生にフィードバックを行うとともに、自分の研究テーマについても実査の結果と知見が課題を解決するに至るのか省察する（K2、L1、M1） ③予習（120分） 実査の結果についてレジュメにまとめる

	④復習（120分） 指摘を踏まえて、再度分析をしてみる
6	①授業テーマ 卒業論文の作成 1 ②授業概要 卒業論文の目次、問題意識、調査概要・分析結果と予想される帰結がそろったことを受けて、すべての材料を確認した上で、卒業論文の帰結となる、課題解決の提示が出来ているのかどうかを、各人30分程度で（2名）報告を行う。そのため、自分の研究について説明することができるようになる（E1、F1・F2、J1、K1、M1） 報告者以外の学生は、議論の中で、自分の研究テーマについても、すべての材料が課題を解決するに至っているのか省察する（K2、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文に関わるすべての材料を確認し、論文を書くための最終レジюмеを作成する ④復習（120分） 指摘を踏まえて、論文の校正や足りない点を修正してみる
7	①授業テーマ 卒業論文の作成 2 ②授業概要 卒業論文の目次、問題意識、調査概要・分析結果と予想される帰結がそろったことを受けて、すべての材料を確認した上で、卒業論文の帰結となる、課題解決の提示が出来ているのかどうかを、各人30分程度で（2名）報告を行う。そのため、自分の研究について説明することができるようになる（E1、F1・F2、J1、K1、M1） 報告者以外の学生は、議論の中で、自分の研究テーマについても、すべての材料が課題を解決するに至っているのか省察する（K2、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文に関わるすべての材料を確認し、論文を書くための最終レジюмеを作成する ④復習（120分） 指摘を踏まえて、論文の校正や足りない点を修正してみる
8	①授業テーマ 卒業論文の作成 3 ②授業概要 卒業論文の目次、問題意識、調査概要・分析結果と予想される帰結がそろったことを受けて、すべての材料を確認した上で、卒業論文の帰結となる、課題解決の提示が出来ているのかどうかを、各人30分程度で（2名）報告を行う。そのため、自分の研究について説明することができるようになる（E1、F1・F2、J1、K1、M1） 報告者以外の学生は、議論の中で、自分の研究テーマについても、すべての材料が課題を解決するに至っているのか省察する（K2、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文に関わるすべての材料を確認し、論文を書くための最終レジюмеを作成する ④復習（120分） 指摘を踏まえて、論文に足りない点を修正してみる
9	①授業テーマ 卒業論文の作成 4 ②授業概要 卒業論文の目次、問題意識、調査概要・分析結果と予想される帰結がそろったことを受けて、すべての材料を確認した上で、卒業論文の帰結となる、課題解決の提示が出来ているのかどうかを、各人30分程度で（2名）報告を行う。そのため、自分の研究について説明することができるようになる（E1、F1・F2、J1、K1、M1） 報告者以外の学生は、議論の中で、自分の研究テーマについても、すべての材料が課題を解決するに至っているのか省察する（K2、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文に関わるすべての材料を確認し、論文を書くための最終レジюмеを作成する ④復習（120分） 指摘を踏まえて、論文に足りない点を修正してみる
10	①授業テーマ 卒業論文の作成 5 ②授業概要 卒業論文の目次、問題意識、調査概要・分析結果と予想される帰結がそろったことを受けて、すべての材料を確認した上で、卒業論文の帰結となる、課題解決の提示が出来ているのかどうかを、各人30分程度で（2名）報告を行う。そのため、自分の研究について説明することができるようになる（E1、F1・F2、J1、K1、M1） 報告者以外の学生は、議論の中で、自分の研究テーマについても、すべての材料が課題を解決するに至っているのか省察する（K2、L1、M1）

	③予習（120分） 卒業論文に関わるすべての材料を確認し、論文を書くための最終レジюмеを作成する ④復習（120分） 指摘を踏まえて、論文に足りない点を修正してみる
11	①授業テーマ 卒業論文の作成6 ②授業概要 卒業論文の目次、問題意識、調査概要・分析結果と予想される帰結がそろったことを受けて、すべての材料を確認した上で、卒業論文の帰結となる、課題解決の提示が出来るのかどうかを、各人30分程度で（2名）報告を行う。そのため、自分の研究について説明することができるようになる（E1、F1・F2、J1、K1、M1） 報告者以外の学生は、議論の中で、自分の研究テーマについても、すべての材料が課題を解決するに至っているのか省察する（K2、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文に関わるすべての材料を確認し、論文を書くための最終レジюмеを作成する ④復習（120分） 指摘を踏まえて、論文に足りない点を修正してみる
12	①授業テーマ 卒業論文の作成7 ②授業概要 卒業論文の目次、問題意識、調査概要・分析結果と予想される帰結がそろったことを受けて、すべての材料を確認した上で、卒業論文の帰結となる、課題解決の提示が出来るのかどうかを、各人30分程度で（2名）報告を行う。そのため、自分の研究について説明することができるようになる（E1、F1・F2、J1、K1、M1） 報告者以外の学生は、議論の中で、自分の研究テーマについても、すべての材料が課題を解決するに至っているのか省察する（K2、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文に関わるすべての材料を確認し、論文を書くための最終レジюмеを作成する ④復習（120分） 指摘を踏まえて、論文に足りない点を修正してみる
13	①授業テーマ 卒業論文の報告会1 ②授業概要 完成させた卒業論文の内容について各人30分程度で報告を行い、その内容について議論する。その結果、具体的な問の解決方法やそのために必要な一連の問題解決の過程について計画を立て、論理的に説明ができるようになる（B1、C1、E1、F1・F2、J1、K1、M1） 報告者以外の学生は、議論の中で、自分の研究テーマについても、すべての材料が課題を解決するに至っているのか省察する（K2、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文のエッセンスを抽出したPPTを作成する ④復習（120分） 指摘を踏まえて、卒業論の製本版（研究室用）の足りない点を修正してみる
14	①授業テーマ 卒業論文の報告会2 ②授業概要 完成させた卒業論文の内容について各人30分程度で報告を行い、その内容について議論する。その結果、具体的な問の解決方法やそのために必要な一連の問題解決の過程について計画を立て、論理的に説明ができるようになる（B1、C1、E1、F1・F2、J1、K1、M1） 報告者以外の学生は、議論の中で、自分の研究テーマについても、すべての材料が課題を解決するに至っているのか省察する（K2、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文のエッセンスを抽出したPPTを作成する ④復習（120分） 指摘を踏まえて、卒業論の製本版（研究室用）の足りない点を修正してみる
15	①授業テーマ 卒業論文の報告会3 ②授業概要 完成させた卒業論文の内容について各人30分程度で報告を行い、その内容について議論する。その結果、具体的な問の解決方法やそのために必要な一連の問題解決の過程について計画を立て、論理的に説明ができるようになる（B1、C1、E1、F1・F2、J1、K1、M1）

	報告者以外の学生は、議論の中で、自分の研究テーマについても、すべての材料が課題を解決するに至っているのか省察する（K2、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文のエッセンスを抽出したPPTを作成する ④復習（120分） 指摘を踏まえて、卒業論の製本版（研究室用）の足りない点を修正してみる
関連科目	ゼミナールⅠ、Ⅱ、Ⅲ（RMGT4601・4602・4603）
教科書	特にありません。
参考書・参考URL	授業時に適宜指示をします。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知をします。 ■オフィスアワー 金曜日3限
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント：25%、パブリックセキュリティ：25%、グローバルセキュリティ：25%、情報セキュリティ：25% ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学：90%、法学：10%

